

## 人生六十年代の生きがい

各務原市社会福祉協議会  
前宮支部長 丹羽 勤

かつての人生五十年代というのは、男性なら定年退職と同時に人生が終わる時代であり、女性であれば大勢の子育てをやつとしませて人生を終わるという時代であった。

ところが人生八十年代になつて、誰もが高齢期に二三十年前後のシニアライフを迎えることになつた。このシニアライフプランも人によつてかなり状況が異なつてるので一律に論じることはできない。そこでこんなに長くなつた高齢期を一つに分けて、一つは、六十才代を中心とした高齢者とい



題字：各務原市長 平野喜八郎

意識をまだもだないで、気に活動している時期と、もう一つは、かなり高齢になり体も少し弱つて高齢者としての意識を自覚した時期などが考えられる。

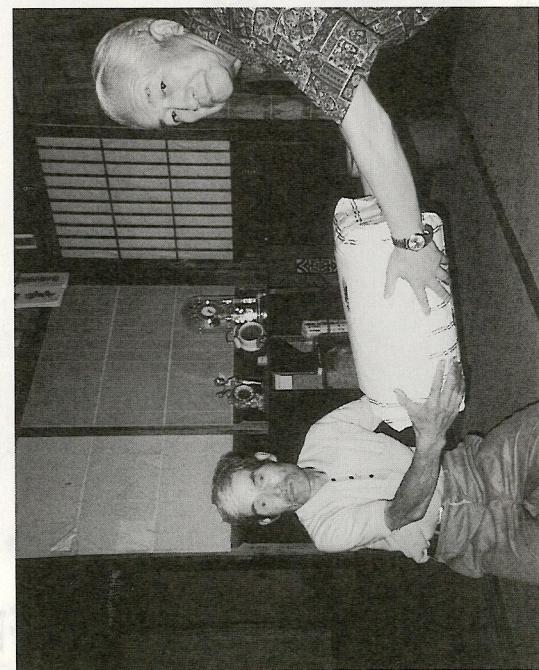
前者は壮年時代の延長として考えれば問題はないが、後者はなかなかそう簡単にはいかない。したがつて、高齢者の生きがいとかかわつて社会参加を考えるとき、老後ににおいて最も重要なことは健康であり、生きがいの大前提も健康である。

一方、生涯学習の視点から高齢期になると社会とのかかわりが少なくなつてくるため、自分自身を高めていく努力と学びの姿勢を持ち続けることが、本当の意味で幸せを獲得していく鍵になる。

今まででは幸せは他人から何かして貰うことで得られると思われていたが、これからは社会とのかかわりの中で主体的な生き方をしていくという考え方が必要である。

高齢者福祉というものは、一人ひとりが、幸せに一生を送ることを保障していくことだと言ってよいだろう。そのためには、自分の生き方を確立し心身ともに健康を保持しながら、人間関係のネットワークを如何に創つていけるか、そして周囲との調和の中に自分自身の存在を置くことができるかということにかかっている。

美しく年輪を重ね、人生の最終ステージに立つまで、一人ひとりが社会的サービスをうまく利用しながら、基本的には心身の自立の努力によって充実した時期を送ることが、本当の意味での幸せな人生八十年代の生きがいと言えよう。



独居老人友愛訪問

平成6年度前宮支部の行事の一貫として行う独居老人友愛訪問を6月12日に支部内居住の13名の方に民生委員の方より、心ばかりの贈物をする。

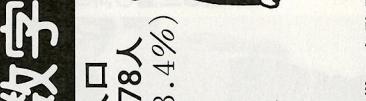
■人口  
4,381人  
(男2,139人)  
(女2,242人)



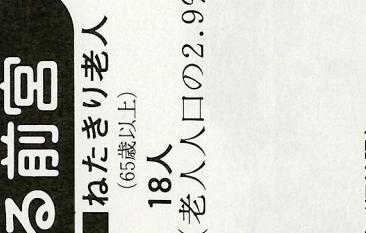
■1人暮らし老人  
18人  
(老人人口の3.1%)



■老人人口  
(65歳以上)  
578人  
(人口の13.4%)

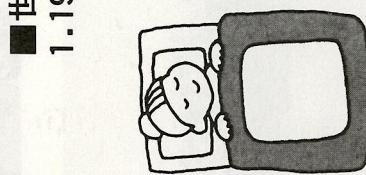


■ねたきり老人  
(65歳以上)  
18人  
(老人人口の2.9%)



■1世帯人口  
3.9人

▼柱元の圖



(資料提供：各務原市企画調整課／福祉課)

# 支部社協の活動

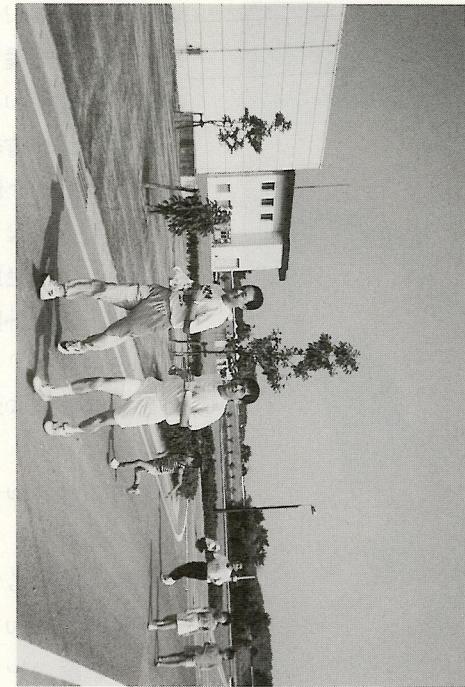


●6月16日●  
介護講習会  
稲羽東福祉センター 参加約70名

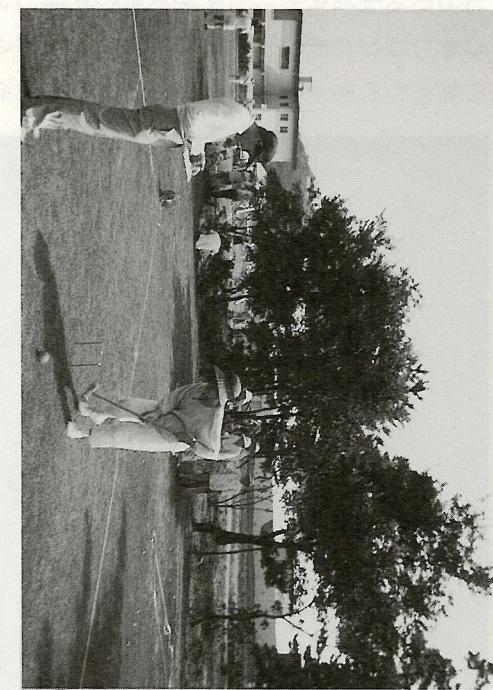


初の試みとして東海大学の原先生による「青少年育成と福祉社会」、「僕の家族」と題して、武山ともひろ君「私の家族」と題して丹羽真由美さんの話を聞く、特に丹羽さんの家族の話には感動され、皆さん心をうなぎたようでした。

—知つてよかったです介護—  
市の保健婦さんの指導で、あらたな介護に皆さん  
が取り組む。



●7月17日●  
家族みんなで走ろう会

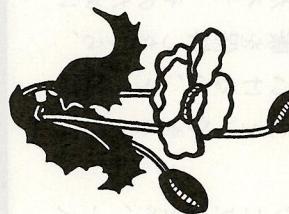


●8月7日●

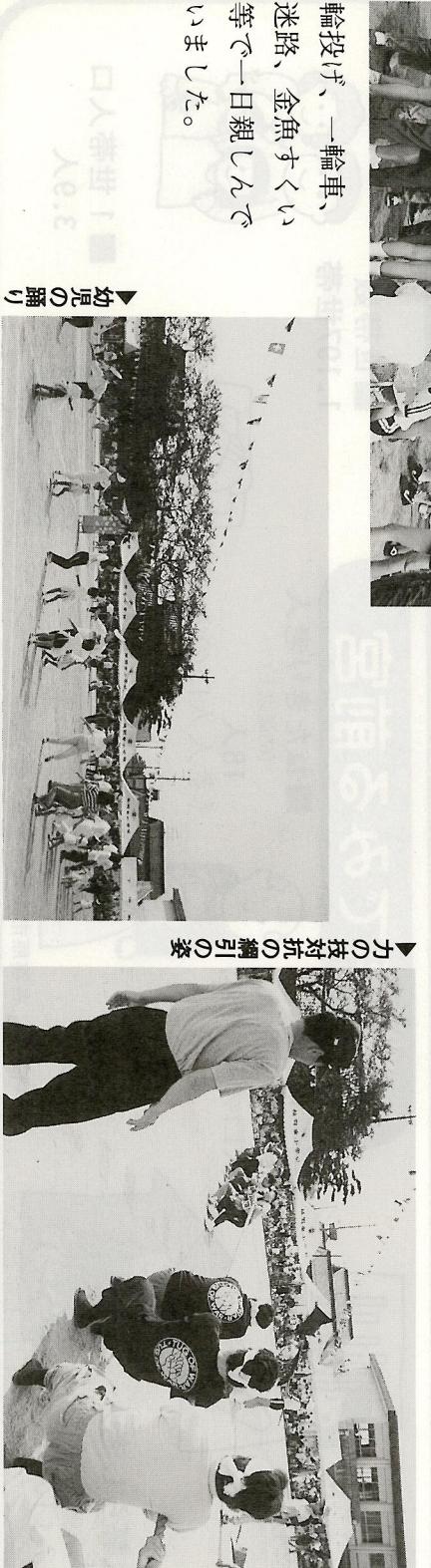
猛暑のクロッケーゴルフ大会



●8月21日●  
稻羽東子供ふれあいフェスティバル



右岸流域浄化センター内 8時より



●10月10日●  
市民運動会

結果／老人クラブ、1位 4丁目A・2位 長平東

3位 4丁目B

疲れを忘れて一日楽しく、走って、跳んで、踊って、の地域住民総出の体育の日でした。

輪投げ、一輪車、迷路、金魚すくい等で一日親しんでいました。

□人帶世1回  
△人帶世1回

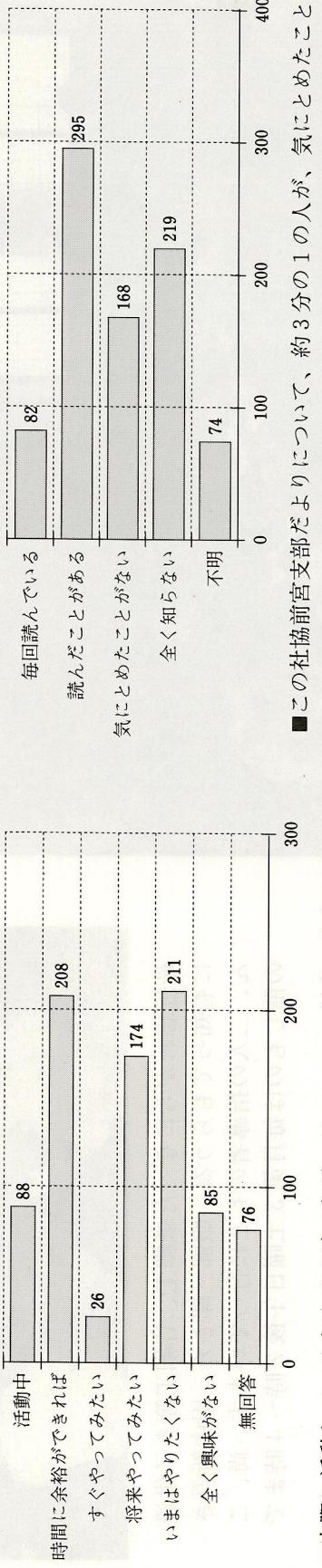
▼児の踊り

# 住民意識調査結果報告書

一昨年10月、自治会のご協力を得て実施いたしました。『福祉のまちづくりのための住民意識調査』の前宮支部の結果がまとまりましたので、皆さんにご報告いたします。結果については、一部抜すいて掲載しています。特に今回は、ボランティア活動や社協の事業、支部だより、福祉一般のことについて、グラフを用いて表わしました。また、多くのご意見もいただきましたので、掲載します。

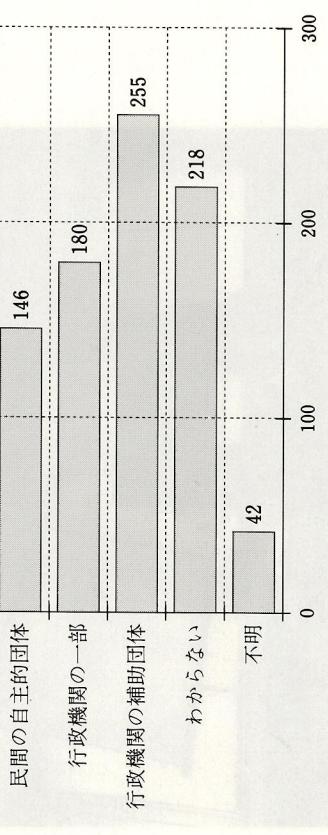
皆さん調査にご協力ありがとうございました。

## 問9. ボランティア活動について



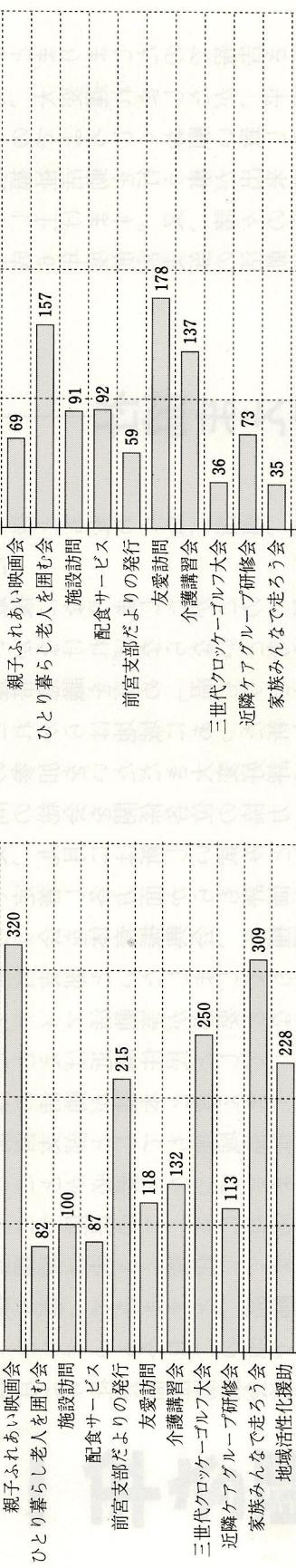
■実際に活動している人は、8.3%ですが、ボランティア活動に興味、活動したい人は、39.2%と関心は高まりつつあるといえます。

## 問10. 社協はどんな団体？



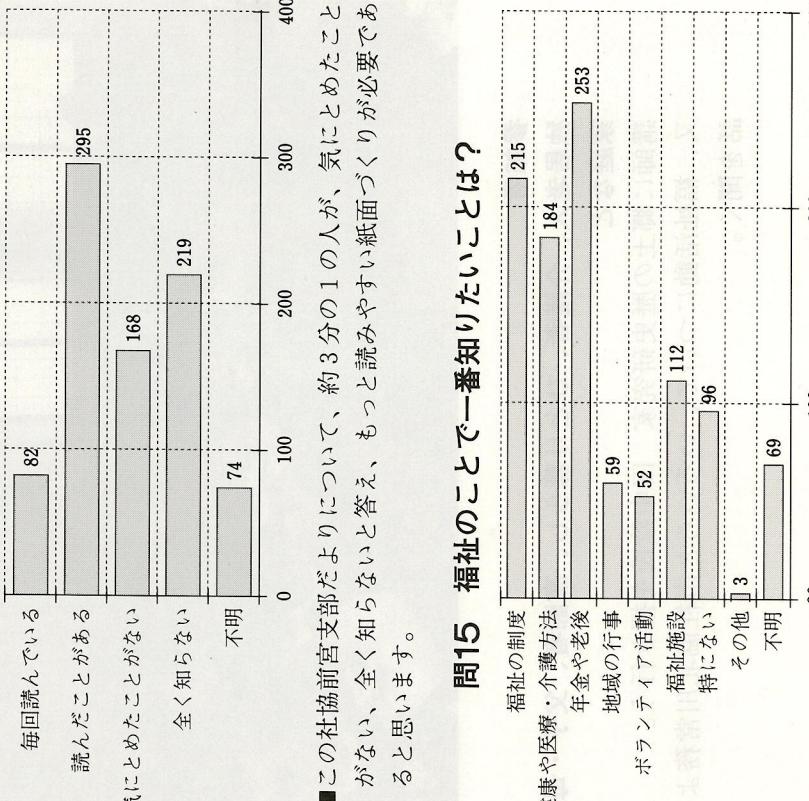
■正解の「民間の自主的団体」と答えた人は、14.1%とまだ認知度は低いようです。

## 問12 支部社協の事業をご存知ですか？



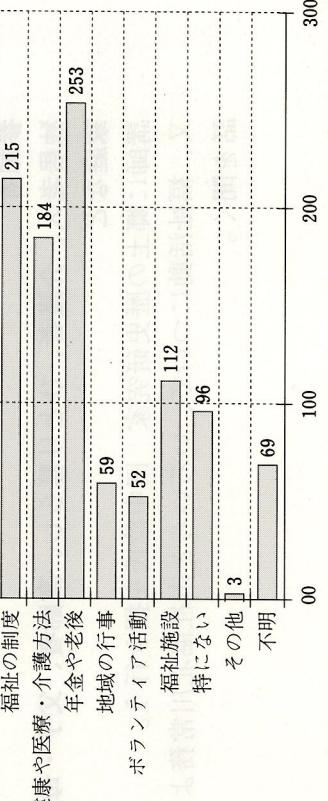
■支部事業の中で、親子ふれあい映画会、家族みんなで走ろう会、三世代クロッケーゴルフ大会は、割と皆さんに知られています。

## 問13 支部だよりを読んだことがありますか？



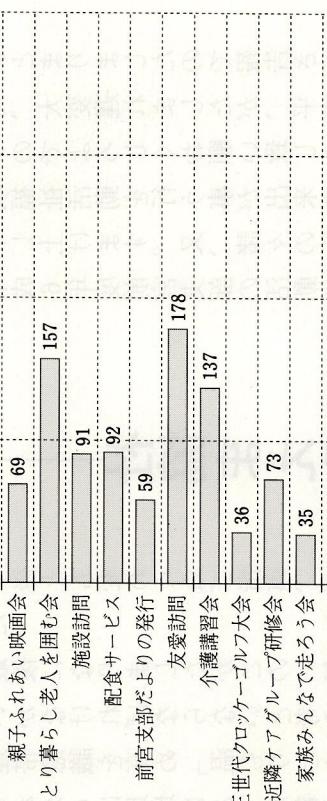
■この社協前宮支部だよりについて、約3分の1の人が、気にとめたことがない、全く知らないと答え、もっと読みやすい紙面づくりが必要であると思います。

## 問15 福祉のことで一番知りたいことは？



■やはり、年金や老後のことが一番多く、続いて福祉制度や医療・介護方法も知りたいことの一つであります。

## 問14 今後、力を入れてやってほしいこと



■今後は、友愛訪問やひとり暮らし老人を囲む会、介護講習会などの事業を積極的に行うよう求められています。

## 自由意見

- ボランティアをしたいが、どうしたら良いかわからない。
- 介護は家庭だけの問題ではなく、地域全体がひとりひとり考えなければならない。
- お年寄り、障害者、子どもなど、だれもが住みやすい地域づくりを望む。
- 社協の組織について詳しく知りたい。
- 社会福祉協議会についてもっとPRしてほしい。

11月29日

# 歳末たすけあい 地域福祉座談会

稲羽東福祉センター——10:30~



最近忘れがちになった紙細工、竹細工等を子供達にも知つてもらう為、服部三郎さん、田中新吾さん、二人の指導者のもとに行っています。尚、この催しものは毎月第3土曜日午後2時~4時まで



二世代ふれあい広場

長平公民館

6月18日

一年を顧みて

編集部より

社協まえみや発行にて

社協前宮支部

くまとありましたので報告させて戴きます。

尚、大変遅れましたが、平成5年度の住民意識調査結果がトーナメントや地域福祉活動を行う事が出来ました。今後も地域のために全力を尽します。又、諸々の行事について多くの方の協力を得て申上げます。又、地域福祉活動に格別のご理解ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

M・K

今後とも変わらぬご指導、ご協力をお願い申しあげます。

最後になりましたがこの一年間皆様のご支援ありがとうございました。これからは地域にあった新しい事業を積極的に取り入れ郷土を愛し連帶意識を高め「温もりとやさしさのあるまちづくり」を推進していくかなければならぬと考えます。

民の参加をいただき大変好評であります。

合同の総会を開き各位の協力により開催致しましたところ多くの住民、又、九月には新しい試みとして、青少年育成会議と前宮支部社協

して定着し各方面からも評価されています。

走ろう会を体育振興会、各種団体の皆様方の協力を得て年間行事と前宮支部といったしましても支部活動の一環として「家族みんなでランティア活動等が必要となります。

たとえば近隣住民として、手助け、話相手になるような活動、ボランティア活動等が必要となります。

前宮支部としても地域福祉、とりわけ在宅福祉の推進には、住民団体の活動が基本と考えます。

そこで住民のニーズに対応できるよう関係機関との密接な連携を図ることが必要となります。

社会環境は大きく変化してまいりました。

振り返ってみると、高齢化、核家族の進行など福祉を取り巻く

ころうとしている今日この頃であります。

四月より社会福祉協議会前宮支部の一員としては一年が過ぎ去

